

| | |
|------------------|---|
| Title | 企業合併における価値を生む合併、価値を毀損する合併 - 買収会社の株主から見た場合の考察 - |
| Sub Title | |
| Author | 中澤, 裕也(Nakazawa, Yuuya) 小幡, 績 |
| Publisher | 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 |
| Publication year | 2006 |
| Jtitle | |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 修士学位論文. 2006年度経営学 第2162号 不可 |
| Genre | Thesis or Dissertation |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002006-2162 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

| | | | | | |
|---|--------|------|----------|----|------|
| 所属ゼミ | 小幡績研究会 | 学籍番号 | 80530688 | 氏名 | 中澤裕也 |
| (論文題名) | | | | | |
| 「企業合併における価値を生む合併、価値を毀損する合併」 - 買収会社の株主から見た場合の考察 - | | | | | |
| (内容の要旨) | | | | | |
| <p>近年、日本企業が関連する M&A は増加の一途をたどり、M&A は企業にとって企業価値を向上させるためのツールとして頻繁に活用されており、2005 年は、件数ベースで 2,308 件と前年比 8% 増の高水準を記録した(野村証券調べ)。これは 2002 年(2,374 件)に次ぐ史上 2 番目の高水準になる。取引金額(公表及び計算可能ベース)は、約 4 割増えて過去最高の 14 兆 9,561 億円となり、過去最高を記録した。案件の大型化が進み、100 億円を超えるものは 148 件と前年比 42% 増であった。</p> <p>しかし、M&A の効果に対する企業価値への貢献についての過去の研究は、必ずしも M&A に肯定的でないものが少なくない。フェッファー(1972)は「M&A を(短期的な)収益性ないし株価を高めるために行おうとするのであれば、それはとくに有効とはいえない。この理由としては、買収価格が買収後取得できる利益よりもはるかに高いからだ。」と述べているし、ルバキントン(1983)も「買収はそれを試みた会社に利益を与えない」という結論を述べている。戦略論の大家であるマイケル.E.ポーターも自著「競争の戦略」において、M&A の企業価値に与えるメリットについては否定的な見解を示している。</p> <p>にもかかわらず、日本企業が関連する M&A は上記のように増加の一途をたどり、好業績を背景にした余剰資金がますます企業買収に振り向けられつつある。</p> <p>M&A は成功する確率のほうが一般的に低いと言われつつ、なぜ経営者は M&A を行うのか。また、これほどの M&A が行われているのであれば、当然成功した M&A も一定数はあるはずであり、成功のセオリーを研究することが重要であると考えた。</p> <p>以下、M&A の現況と歴史、問題意識を持ったきっかけ、分析方法等について詳細を述べる。</p> | | | | | |